

## 貴重書紹介

### 小城鍋島文庫「戊辰戦争戦況図」



### 解説

慶応4年(明治元年)5月、東北・北陸の諸藩は「奥羽越列藩同盟」を結成し、明治新政府に反旗を翻します。しかし勤王思想が強かった久保田(秋田)藩は、仙台で孤立した新政府の奥羽鎮撫隊総督九条道孝らを受け入れ、7月に同盟を離脱します。

これに対し同盟側は、久保田藩への攻撃を開始します。久保田藩には佐賀藩など新政府の軍勢が入り、一時は新政府側が優位に立ちます。しかし庄内藩(山形県鶴岡市周辺)が反攻を開始し、一時は久保田城下近くまで侵入します。さらに8月には盛岡藩が、久保田藩北部の要衝である大館を占拠しました。

こうした状況下、佐賀藩の支藩小城藩の兵は久保田藩救援のため、8月22日に船川(秋田県男鹿市)に上陸、9月6日に大館を奪回します。その後仙台藩・会津藩・庄内藩・盛岡藩が相次いで新政府に降伏し、東北地方における「戊辰戦争」は終了しました。

本史料は、久保田藩領の地図に付箋で戦況が説明されています。大館のところには、「肥前四小隊・小城一手・秋田一手」「八月廿七日ヨリ進撃、九月六日マテ八戦勝利」と、佐賀・小城藩兵の奮闘が記されています。

(地域学歴史文化研究センター 伊藤昭弘)